

Emergency



Watch

No.59 Nov. 2015



神戸こども初期急病センター

2015年10月受診者数：1920人

【訴え】

1. 発熱 : 980人 (645人)
2. 咳嗽 : 929人 (248人)
3. 鼻汁 : 646人 (25人)
4. 嘔吐 : 343人 (162人)
5. 呼吸困難 : 297人 (258人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

【疾患頻度】

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 558人
2. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 269人
3. 感染性胃腸炎 : 266人
4. 気管支炎 : 117人
5. じんま疹 : 86人

10月の神戸こども初期急病センターへ受診者数は1920人でした。受診理由としては、いつもどおり、発熱が最も多く980人でした。11月に入り、これから冬にかけてインフルエンザ、ノロウイルスなどの感染性胃腸炎が流行してきます。引き続き、うがい、手洗い、部屋の換気、さらに状況によってマスク着用をお願いします。今回は、ウイルスなどの微生物の感染予防法をまとめてみました。ご参考に一読ください。

～感染予防法～

手洗い	きちんとした手洗いとは、手首の上まで、できれば肘まで、石鹸を泡立てて、流水下で洗浄する。手を拭くのは布タオルではなくペーパータオルが望ましい。布タオルを使用する場合は個人持ちとして共用は避ける。尿、便、血液、唾液、眼脂、傷口の浸出液に触れた場合は必ずきちんと手洗いをする（汗はこの限りではない）。石鹸は液体石鹸が望ましく、容器の中身を詰め替える際は、病原体が繁殖している可能性のある残った石鹸は捨て、容器をよく洗い、乾燥させてから、新たな石鹸液を詰めることが望ましい。
咳・くしゃみ	口、鼻をティッシュなどで覆い、使用後は捨てる。ハンカチなどを使う場合は共用しない。唾液や鼻水が手についた場合は流水下で石鹸を用いて洗う。ティッシュのない場合は、手ではなく、上腕や肘で覆う。
吐物・下痢	吐物は、ゴム手袋をして、（できればマスクを着用し、）ペーパータオルや使い古した布で拭き取る。拭き取ったものはビニール袋に二重に入れて密封して、破棄する。便や吐物の付着した箇所は塩素系消毒液 200 ppm 程度（漂白剤を約 200 倍に希釈）で消毒する。消毒剤の噴霧は効果が薄く、逆に病原体が舞い上がり、感染の機会を増やしてしまうため、行わない。処理後、石鹸、流水で手を洗う。
清掃	床、壁、ドアなどは水拭きでよい。ドアノブ、手すり、ボタン、スイッチなどは、水拭きした後、1日1回の消毒（アルコール類でよい）が望ましい。
プール	プールの水質基準である 0.1-1.0ppm の塩素濃度を守る。プール前には体を良く洗う。プール後は、うがいをして、シャワーで体を洗う。
予防接種	日本では、小児の定期接種としてジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ、麻疹、風疹、日本脳炎、結核（BCG）、インフルエンザ菌 b 型、13 価肺炎球菌、ヒトパピローマウイルス、水痘に対するワクチンが、任意接種としてムンプス（おたふくかぜ）、インフルエンザ、ロタウイルス、A 型肝炎、B 型肝炎、髄膜炎菌、狂犬病、黄熱に対するワクチンが実施されている。